

ベートーヴェン後期弦楽四重奏曲 コンサートシリーズ

L.v.ベートーヴェン（1770-1827）の後期音楽に対する憧れと畏怖の念は、日増しに膨らむばかりです。とりわけ、創作人生のすべてが注ぎ込まれた五曲の弦楽四重奏曲群は、異次元の精神性と圧倒的な音楽的密度によって、音楽史のなかで威容を誇っています。本コンサートシリーズではこれまで三回に渡ってこれらを成立順に取り上げ、様々な角度から切り込んできました。

本公演では、ベートーヴェン自身が「最高の作品」と位置付けた、作品131（1826年）に焦点を当てます。両端楽章に嬰ハ短調というきわめて珍しい調が用いられ、フーガに始まる七つの楽章が途切れることなく演奏される、新奇にして特殊な四重奏曲。前年完成の作品130（大フーガ付き）に続き、J.S.バッハ（1685-1750）への崇敬の念を示しながら、前作とは異なる次元で、対位法や変奏技法、形式への大胆なアプローチが開始されたのでした。その険しい「孤高の道」の先には、いかなる世界が広がっているのでしょうか。

プログラム前半では弦楽三重奏のためのセレナーデ（1797年）をお聴きいただきます。発表直後から絶大な人気を博したこの曲は、作品131と同じく七部分からなります。恋人の家へと楽団を誘う行進曲一窓辺で奏でられる五つの美しい小曲一退場の行進曲という構成は、伝統的なセレナーデのスタイルを踏襲するものですが、それを単なる娯楽作で終わらせないところがベートーヴェンたる所以なのでしょう。妙なる音楽芸術がもたらす愉悦と、最晩年にして尽きせぬ内発的欲求の発露を、どうか会場にてご体感ください。初秋の一夜、皆さまにお目にかかれまことを、メンバー同心よりお待ち申し上げます。

- 第1回 時代を超越するもの 作品127
- 第2回 神性への聖なる感謝の調べ 作品132
- 第3回 涙をたたえて 作品130(作品133「大フーガ」付き)
- 第4回 孤高の道 作品131
- 第5回 葛藤の先に“Es muss sein!” 作品135



Ensemble Humoreske

アンサンブル・フモレスケ

2009-12年、Quartett Humoreskeとして、東京藝術大学音楽学部とウィーン音楽演劇大学による共同プロジェクト「haydn total」に参加。リゾナーレ室内楽セミナーにおいて岡山潔、服部芳子、川崎正憲、山崎伸子、河野文昭各氏の薫陶を受ける。

2020年再始動し、古代から近現代までのデュオ・トリオ・クアルテット等多様なアンサンブル作品を組み合わせたコンサートシリーズを展開しながら、TAMA音楽フォーラムへの出演や可児市文化芸術振興財団との共催事業など、各地で演奏活動を行なっている。

なおフモレスケとは、「情緒と機知との幸せな融解」を意味するドイツ語 "Humor"（フモール）から転じたもので、多様な感情を音に込め、共有したいとの願いが込められている。

ヴァイオリン 山本美樹子 Mikiko Yamamoto

東京藝術大学大学院室内楽科後期博士課程修了。リゾナーレ室内楽セミナーにて最優秀賞受賞。東京芸術大学とウィーン音楽演劇大学の共同プロジェクト「haydn total」に参加し、ハイドンの弦楽四重奏曲の録音を行う。岡山潔、ジェラルド・ブーレ、松原勝也の各氏に師事。東京藝術大学音楽学部・同付属高等学校・お茶の水女子大学文教育学部非常勤講師を務める。

ヴァイオリン 三雲はるな Haruna Mikumo

東京藝術大学卒業。同大学院修士課程室内楽科を首席で修了し、修了時に台東区長賞、大学院アカンサス音楽賞を受賞。スイスバーゼル音楽院修士課程及びに演奏家課程を最高点で修了。オーケストラ研修生として、バーゼル交響楽団、チューリヒトーンハレ管弦楽団等にて研修を行う。沼田園子、松原勝也、玉井菜採、B. ドール、A. オブレアンの各氏に師事。現在ドイツ・マンハイム国立歌劇場管弦楽団正団員。

ヴィオラ 脇屋冴子 Saeko Wakiya

東京藝術大学を経て、同大学院修了。その後ウィーン国立音楽演劇大学にて研鑽を積む。YBP国際音楽コンクール最高位。東京藝術大学在学中にモーニングコンサートに出演。また室内楽において松尾学術振興財団より奨学金を受ける。これまでにヴィオラを岸優子、大野かおる、川崎和憲、ジークフリート・フーリンガーの各師に師事。現在新日本フィルハーモニー交響楽団ヴィオラフォアシュピラーを務める。

チェロ 長谷川彰子 Akiko Hasegawa

愛知県立芸術大学を首席で卒業。第77回日本音楽コンクール第3位。2010年9月よりロームミュージックファンデーションより奨学金を受け渡独。ライブツィヒ音楽演劇大学修士課程を最高点で卒業。2013年東京芸術大学修士課程首席修了。これまでに中島顕、天野武子、河野文昭、山崎伸子、ペーター・ヘルの各氏に師事。九州交響楽団チェロ首席奏者を経て、現在新日本フィルハーモニー交響楽団チェロ首席奏者を務める。